令和５年度　第６回　豊田市足助地域会議　議事録

開催日時	令和５年９月２５日（月）	開会 １８時３０分	閉会 ２０時３０分
会　　場	足助支所　２階　第２、３会議室		
出　席　者	太田市長、企画政策部副部長　都築 企画課長　野依、都市整備課担当長　西岡 委員１４名出席 足助支所　支所長 青木、副支所長 八木、副主幹 深田、担当長 鵜井、主査 花園		
欠　席　者	３名		
傍　聴　者	４名		
内　　容	１　開会 ・市民の誓い唱和 ・会長あいさつ ・鈴木市議挨拶 ２　諮問「第９次豊田市総合計画の方向性について」 ・諮問書の授受 ・市長あいさつ ・諮問内容説明（企画課、都市計画課） ・質疑応答、意見交換 ３　連絡事項 ・答申に向けて今後のスケジュール ・新規課題事業検討分科会 ・次回の会議等について確認 ４　支所長あいさつ		

■議事（要約）

２　諮問「第９次豊田市総合計画の方向性について」

【諮問内容説明】

企画課、都市計画課職員から「第９次豊田市総合計画の方向性について（案）」の資料に基づいて説明

【意見交換会】

（委員）

・今回の諮問が目指す姿、まちづくりの基本的な考え方、都市構造の３点ということの説明を受け、ミライ実現戦略 2030 の方向性は、まだ今回の諮問内容でないことがわかった。

①　【仮称】ミライ構想の方向性は普遍的な方向性ということであるが、普遍的は変わらないという意味だと思うが、これは第８総でも普遍的という言葉が使われていたと思う。第８総で普遍的があるにもかかわらず、第９総ではどのような普遍と言っているのに変わっているのか、変わっていないのか、どのように第９総では普遍をとらえたらよいのか？

② 継承と深化について継承とは第８総からの継承と考えていいかと思う。深化については、第８総にはなかった、または第８総から深化したいという考えだと思うが、これを見る限り非常に抽象的で具体的にチェンジしようということが全く見えてこない。これで意見を求められてもなかなか意見が言えない。今回の諮問は、足助の地域会議だけでなく全ての地域会議に諮問されているのか？それぞれの地域会議毎に違った意見、思いが地域ごとにはあると思う。足助の場合は、足助としての深化等みんなで考えていければと思う。

③ 最後に課長からミライ実現戦略についても、概要を聞いた。自分にとっては、地域への愛着、誇り非常に心に残った。本当に大事にしていくことだと思う。この愛着、誇りについて足助の今後、高齢化が進み、過疎化も進み、学校の存続がどうなるのか、学校単位で愛着と誇りを持っていきたい。そのへんの見通しとして第９総でどのように我々として手ごたえを感じることができるのか。そういうところを教えていただきたい。

（市長）

① ミライ構想の普遍的、普遍性についてはいつも使いますが、第７総と第８総の話をさせてください。２００５年に合併をして新しいくくりになったので、新しい総合計画が必要となった。総合計画を着手したわけですが、２００５年４月に合併をして５．６．７年と２年半くらいかかった。２００８年から２０１７年までの１０年計画を策定した。その第７総は、どうなったかというと２００８年４月新豊田市のまちづくりを新しい総合計画に基づいてスタートした。その年の９月にリーマンショックがあった。２００９、２０１０にトヨタ自動車のアメリカでの大規模リコールがあった翌年２０１１年に東日本大震災があった。その当時議論にでたのは、これだけ財政状況、財政見通しがいきなりくるって果たして第７総このままやっていくのか？変えなくていいのか？議論になった。財源見通しは確かにくるっている。くるっているけども計画自体の目指す方向性は、普遍的と言っていいと思う。目指す方向性については、変わっていない。ただし、何をやるかについては、その財政状況をみて選択をすることになる。計画通りいかないことも出てくる。そういう話で、一旦第７総はそのままやっていくこととした。２０１２年２月に就任した。当時は、社会情勢、経済情勢も乱れていた。そのために基金を大胆に取り崩し、借金も大胆にして、財政規模を確保して就任直後の方針であった。一期目の終わりごろ、割と早めに先が見えかけた。それで第７総が前倒しで見直そうということになった。２０１７年から２０２４年まで８年間と変則でしたが、それまでは１０年刻みできている。その理由は、２０２５年問題と言って団塊の世代が後期高齢者を迎えるのが２０２５年なのでそこまでに色々な仕組みを考えないと、２０２５年にバタバタしていては間に合わないと思い、とりわけ在宅医療の仕組み、地域包括、そういうしくみは２０２４年までにやっておかないと大混乱を起こすと考えた。第８総はどうなったかというと、コロナで３年余今も引きずっている。結局、第８総もスタートの２、３年はよかったが、コロナで第７・８総を通して経験したのは、いろんな自然災害、経済事件そういうものでどうにでも変わってしまう。ということを経験した。普遍的、普遍性については目指しているが、わりと裏切られている。これからも普遍的なものは書き込んでいく。ただ第９総でどんなことを書き込むのかという議論はこれからです。第７・８総経験を踏まえるとかなり丸めた表現でおさめることになる

のではないか。そうならざるを得ないそう思っている。

② 継承と深化の話は、第７・８総経験して何を考えたかというとこの後にでてくるのは、より具体的な事業が出てくる。足助についてもより具体的な事業が。今はそれを議論する段階ではないので、わかりにくく恐縮ですが、例えば、この人が、こういう取組・事業を足助地区でやるという計画を継承するとします。その計画が、（資料左下）豊田市を取り巻く環境の左下のものがこれからどんどん形を変えて出てくる。その時に、いったいどうやってみんなで判断することになるのか？その時に例えば、もう一回見方を変えてみよう。もう一回考え方を変えてみよう。もう一回行動を変えてみよう。そういう３つの「変える」をあらかじめ今の段階で、迷ったらここに戻って、みんなで議論しようということが確認しておきたい。ということです。

くどいようですが、過去の２回の経験から向こう２５年から３４年の１０年間というのがばちっと普遍的なものができてそれに基づいてびしっとこういうふうでやっていきます。ということが書ければいいが、書いたとしても、いろんなことが起きる。その時に迷ったらここに立ち返ってみんなで議論しましょう。あらかじめ想定しておきたいということです。

③ 愛着・誇りの話は、子供というのは、これからの時代いったいどうなるのか？便利な暮らしは、快適な暮らし。便利になればなるほど、私たちの暮らしは、快適になる。というような思い込みがあったと思う。結局、一方で便利な暮らしを追求してきたが、地球温暖化などの状況もありえる。便利な暮らしを求めてきた結果、実は快適な暮らしには決してなっていない。というようなことを考えれば考えるほど、これから、私たち大人がどういうものを子供たちに残さなければならいか、どういう街をどういう地域を子供たちに残していかなければならないのか。という視点を、すべての政策において考える必要があると思う。こういうまちづくりをしたとして、子供がこの町が地域に愛着や誇りをもたないのであれば、どこかにいってしまう。子供目線でまちづくりを考える。愛着のある、誇りというものをどうこの地域やまちに落とし込んでいかなければいけないのか。計画に落とし込んでいかなければならないのか。というのが今の段階での整理になってます。

（委員）

詳しくお話しいただけて、概要がよくわかりました。だから、総合計画の施策を常に見直ししていくことを前提とした計画というところ。ということは、こういう諮問をすることが、今回だけではなく、常に施策の見直しをする場合に諮問はあると考えてよろしいか？

（市長）

常にということにはならないと思うが。このあとの諮問については詰めていない。

（委員）

我々としては、具体的なところで諮問をしていただいて、よりそのほうが意見を言いやすいと思うので、ぜひ考えていただければと思う。

（市長）

地域会議では諮問・答申のスタイルをとっているが、市内の大学４か所で学生と意見交換も行っている。また、区長会等々多方面において意見交換を行う。決して地域会議だけ聞いてい

るわけではない。
（委員）
(仮称)ミライ構想の方向性（案）について、まちづくりの基本的な考え方の４点について、これは具体的なイメージがあってこう表現されているのか？こういうイメージをもって自分たちが話し合うのかどちらか？
（市長）
例えば地域会議で話題になっていることがありますか？課題だとか？
（委員）
陣屋跡の活用についてです。
（市長）
例えば、陣屋跡の活用をどうしよう？ここでは、歌ったり、踊ったり、話したりという具体的な話が出ると思うが、陣屋跡の活用をどうしようかと考えたときに、例えば、つながり・関係性の拡がり・・だと足助を超えて又陣屋跡つながりとか広げていく。自分たちだけで考えるのではなく、いろんなつながりでもう一歩踏み出す。
あるものを生かす・・・陣屋跡そのもの、広場が欲しい。子育て世代からの意見をどこかに作るのではなく、あるものを生かす。
足し算・・・わかりにくいと思うが、陣屋跡だけで考えるのでなく、紙谷、鈴木家とのコラボとか、中馬のお雛さん時に別のイベントを絡めてかけ合わせることによってより相乗効果を高める。ことができるのではないでしょうか。
行政が･･･行政をあてにするのではなくて、いろんな主体が楽しむまちづくりの場としては、陣屋跡地はすごくいいと思います。
というように、具体的に何か事業をとらえても、場の活用をとらえても実は、発想の転換をここでもう一回議論しようという話。
同じように３つの変えるも同じ視点でもって議論する
つまり、話し合うときはみんな思考回路が違っていて、議論の前提も違っていて、にもかかわらず、議論しようとする。なかなかまとまらない。時間ばかりかかる。そういう時に、こういう発想の転換　３つの変えるこういうポイントに立ち返ってみんなで議論すると、わりと業務がしやすくなる。
（委員）
ないものを補うから・・・・という観点から、もう新しいものは作らないという意味か？
（市長）
必要なものはやります。
（委員）
必要なものはやるけれども、あるものを生かす発想もしてくださいということか？
（市長）
そういうことです。
（委員）
行政がリードするまちづくりはやらない。行政はリードしないということ？

（市長）
　これも違います。行政が責任を持ってやらなければいけないことはもちろんやります。
（委員）
　行政がサポートするような仕組みづくりにしていくということか？
（市長）
　そういうこともあるし、市民の皆さんが動かれることもある。例えば、わくわく事業については市民の皆さんが主体となって実施している。
（委員）
　裏面のコンパクト+ネットワークについてネットワークはわかるが、コンパクトの意味が理解できない。
　例えば、足助支所だと大きすぎるからもっと機能を小さくするということか？
　コンパクトの意味がよくわからない。
（市長）
　支所が中心となっている。支所を起点にして集約度合いがずいぶん違う。旧市内でもずいぶん違う。明確な線引き、表現の仕方はないと思うが、緩やかに地域の皆さんがほぼほぼこの辺が中心だ、そこにある程度機能が集約されているということ。
（委員）
　ということは、足助支所だけでなくて他にも、今後、何かを作るということではないのか？
　分散するということか？
（市長）
　足助で言えば、私のイメージというのができてしまうくらい、人によってとらえ方が違うと思う。足助支所はもちろんですが、この街並みです。足助の街並みです。
（委員）
　よくわからないが、機能を集約してそこにいろんなものを作って、ネットワーク化するって言っておいてコンパクトにするってことがわからない。拡充するならわかるけれど。
（市長）
　足助の街中は、大体のものがそろっていると思う。
（委員）
　コンパクトは機能を拡充するのとは逆だと思うが。
（市長）
　まちの構造として、足助は足助のある程度中心的な機能を果たしているエリアがあって、稲武は稲武であって、そこにある程度の機能は集約する。必要があれば、新たに入れる。だが、ここで言っているのは、新たに入れるといい方は、あまりしていない。それぞれのコンパクトな中心部は、お互い補完しあう。むしろ足助の中心部は、周辺の旧の町村の中核的な役割だとむしろ思っている。合併の時も、旧町村のある程度中心として足助を位置付けている。という議論がされたことがある。決してコンパクトにしてくという意味ではない。ぜひ答申の中で、いま私が申しあげた中で、いい表現があったら答申の中でご指摘ください。誤解のない表現ができるのであれば採用させていただきます。

（委員）

先ほど言われた。コンパクトについて、一極集中でなくて、それぞれの拠点ごとにもう少し、システムを分散して、一極集中することでなく、もう少しコンパクトにする。いろんなところに拠点を位置づけていくという意味ではないか？それぞれの支所であれば、拠点をより小さくという意味ではない気がする。

誤解を招く表現が多いと思うので、私もこの拠点というのがいったい何なのか？（右図から説明）丸のある所を拠点ととらえているのか？私は、もっと小さいところでも拠点としていいのでは？例えば、小学校区が拠点となりうるのではないかと思う。足助は児童数も減ってきて小学校の統廃合も問題になることがきっとあると思う。それで、先ほどの見方を変えるといったときに、統廃合一本でなく、そこを子供の教育機関だけでなくて、地域の拠点としての機能を持ちながら、地域の人がそこでいろいろ教育のみでなく、地域の生活に対する拠点としていくことが、基礎インフラを生かすことになるのではないかと思う。拠点も機能集積になるのではないか。私はそういう意味でこの拠点を考えたいと思う。作成者は、拠点をどう考えて見えるのか？

（市長）

ある程度集約度を高いところに設定している。おっしゃるとおり日常生活の中で、小学校区はひとつの拠点。あるいは自治区の中で言えば、集会所は拠点。生活エリアのいろんな層がある中の拠点はいくらでもある。ここで抑えている拠点は、旧市町村単位です。世の中で言うコンパクトシティは、一極集中。豊田市で言うと駅周辺。豊田市の場合は、一極集中ではとてもじゃないけども考えられない。地域が広いということもあるし、市民の皆さんはそれぞれ拠点を持って生活されている。最大公約数的に旧市町村単位で拠点を抑えるとしたらこういう形になる。旧豊田市内は、それはそれで、旧の合併町村があるので複雑な絵図らになっている。

（委員）

横断的な目標というところで、子供が中心となっている、こういうことを話し合うなら子育て世代の親との話し合いを持たないと。こういう場をつくってくれるのか？

（市長）

トヨタシティボイスで受付けているが、広く一般にどなたでもということでやっている。いい方法がありますか？

（企画）

子ども総合計画の市民意見を９月末に発想を予定している。８，０００人くらい意見をいただく。さらにその中に、総合計画について意見を聞く場を作りたいと思っている。参加の案内も同封している。１０、１１月にかけて意見交換会を実施します。そういう形で意見を聞こうと思っている。また NPO や子育てネットワークにも話しかけているところです。

（委員）

PTA だけでなく子育て世代の親にも声掛けしてほしい。

（企画）

子供中心世代に声掛けしていくつもりです

（委員）

① 子供が総合計画を理解できて、将来を描けるようなことができないか？

② 山村条例を組み入れた総合計画になっているのか？

（市長）

① 子供目線の話は、今後スケジュールの中の話でしっかりと取り組んでいく。

② おいでんさんそんプランが先にでき、担保するために後追いで条例を作った。
一般的には条例を作り、計画を作り実行する。おいでんさんそんプランは、公表し、計画も更新しているこのままやっていく。それは第９総にも取り込まれる。同時進行ですすむ。

（市長）

ある地域会議で、どうして山側のことを町の地域会議に諮問するのか？ちょっとこれはと思った。町側の答申の中では、山側に関心がある。山に対するアピールができる。山側の答申は、山で閉じている。そういう答申。どうして山側の人たちは、町側の人たちにアピールしないのか？山側のよさとか、どうしてアピールしないのか？町と山は双方向でいなければならないのに、どうも双方向になっていない。情報発信そのものが。そこがもったいないと感じた。もっと山側の暮らしのいいところを町側の人たちにどんどん情報発信してほしい。

３　連絡事項　事務局より説明

（１）答申に向けて今後のスケジュール

・１０月　答申案の検討
　［５月、６月で行ったグループワークで確認した足助の課題も反映しつつ］
　疑問点等は随時企画政策部へ確認

・１１月　答申案の最終調整

・１２月　第９回足助地域会議で答申

（２）新規課題事業検討分科会

・陣屋跡地利活用のワークショップを開催中

日　　程：１回目 8/20（日）終了、２回目 9/11（月）終了、３回目 9/30（土）

メンバー：足助まちづくり推進協議会部会長等、地域会議（新規課題事業検討分科会）
足助のまちなかの人（一般公募は２、３回目から）

目　　的：①陣屋跡地のアイデンティティの共有（魅力、みんなにとっての意義など）
②整備イメージの共有（完成イメージでなく、みんなで作っていくためのたたき台）
③活用に必要な設備や物品のイメージを具現化する。

成 果 物：①キーワードの言語化（具体化）
②イメージの作成（親しみやすいイラスト）

様々な意見等を紡ぎ合わせ、いつまでも愛着を持って活用される拠点づくりをめざす。

次回の会議等について確認

・第６回新規事業検討分科会
　令和５年9月２８日（木）　午後６時３０分～　足助支所
・第７回足助地域会議
　令和５年１０月１６日（月）　午後６時３０分～　足助支所
・第４回まるふく会議（高齢者課題検討分科会）
　令和５年１０月２４日（火）　午前１０時～　足助支所
・あすけ通信編集会議
　令和５年１０月３１日（火）　午後６時～　足助支所